**第1期土佐清水ジオパーク基本計画
前期アクションプラン
2022 - 2025**

土佐清水ジオパーク推進協議会

2022年4月15日 策定

目次

保全	—地域を守る—	1
No.1	サイトの管理	1
1-1	保全管理計画の策定	1
1-2	利用ルールの明確化と周知	1
1-3	データベースの整理	2
1-4	サイトの情報発信	2
No.2	モニタリング	2
2-1	定期的なモニタリングとデータの蓄積	3
2-2	モニタリング成果の報告・発表	3
No.3	住民主体の保全活動	3
3-1	学校や住民と連携したモニタリング	3
3-2	住民主体の保全活動	4
No.4	調査研究	4
4-1	大学や研究機関との連携強化	4
4-2	調査研究に関わる資料の収集および活用	4
4-3	調査研究活動に関わる支援	5
No.5	無形文化遺産の保全	5
5-1	調査・目録作成	5
5-2	無形文化遺産の啓発	5
教育	—地域に新たな価値と文化を—	7
No.1	調査研究成果の普及	7
1-1	研究成果のアウトリーチ	7
1-2	ジオパークに関する理解	7
No.2	学校教育との連携	7
2-1	学校での学習機会の拡充	8
2-2	教員向け研修の継続と拡充	8
No.3	防災学習の推進	8
3-1	自然災害碑や防災施設等を活用した学習	9
3-2	防災・減災を伝える人材育成	9
経済発展	—地域をうるおす—	10
No.1	ジオツーリズムの推進	10
1-1	ジオガイド養成	10
1-2	ジオツアーの販売	10

1-3	誰もが楽しめるツーリズムの推進	11
1-4	事業者との連携	11
No.2	環境整備	12
2-1	表示物などによる可視性の確保	12
2-2	サイト周辺の環境整備	13
2-3	アクセスルートの整備	13
2-4	エリア玄関口での可視性の確保	14
No.3	持続可能な経済発展	14
3-1	一次産業分野との連携	14
3-2	ジオストーリーを活用したブランディング・商品開発	15
3-3	地域に根差した食文化の発信	15

活気づくりー地域ににぎわいときらめきをー 16

No.1	広報広聴・ボトムアップ	16
1-1	情報発信	16
1-2	講演会やイベントの実施	16
1-3	地域住民との意見交換	17
No.2	拠点施設の充実	17
2-1	足摺宇和海国立公園との連携によるジオパーク展示等の磨き上げ	17
No.3	パートナーシップ・ネットワーク活動の推進	18
3-1	地域団体との連携促進	18
3-2	行政との連携促進	18
3-3	研究機関との連携促進	19
3-4	民間企業との連携促進	19
3-5	ジオパークネットワークへの参画	19
No.4	地球にやさしいまちづくり	20
4-1	地域内でのごみの削減、リサイクルの推進	20
4-2	生物多様性への理解を深める	20
No.5	組織の持続可能な運営	20
5-1	組織のあり方の検討	20
5-2	予算の確保	21
5-3	人材の確保と育成	21
5-4	ジェンダーバランス、多様性の確保	21

保全 — 地域を守る —

地形、地質遺産といった「大地の遺産」をはじめとする地域資源の保全は、ジオパーク活動において核となる重要な取り組みです。地域における地質的価値が認められる場所や、大地とのつながりの上に成り立っている生態系や文化的に重要な場所をサイトとして定め、保全を図ります。サイトの価値や情報は住民や来訪者と共有し、その大切さを共通認識とした上で、地域の宝を私たち住民自身の手で保全していくことが重要です。サイトの保全や活用については関係者との協議・連携をもって実施します。さらに、調査研究活動の振興をおこない、地域の価値のさらなる掘り起こしを進めます。

No.1 サイトの管理

土佐清水ジオパークでは、ジオパークの理念のもと、大地の遺産をはじめとする地域資源を保全していきます。土佐清水ジオパークにおける地質・地形遺産の多くは足摺宇和海国立公園の範囲内にあり、自然公園法によって保護されています。また、いくつかの重要なサイトは文化財保護法の対象となっています。

1-1 保安全管理計画の策定

貴重な遺産であるサイトの価値を損なわずに保全・活用していくためには、明確なビジョンと計画に基づいて適切な管理が行われる必要があります。土佐清水ジオパークでは、2022年に保安全管理計画の改定をおこない、サイトの選定基準やモニタリングの手順について定めることとしています。また、それぞれのサイトについてそれぞれの課題、保全状況、利用状況を反映した個別の保全・管理計画の策定が必要です。この保全・管理計画に基づいて、各サイトの利用ルールも定められることとなります。この計画の策定にあたっては、環境省、行政、地域住民、観光事業者などサイトの保全・利用に係る関係者と十分に協議し、みなが納得できるものにする必要があります。

取り組み	目標値	備考
◆保安全管理計画の改定	2022年度までに実施	
◆サイト個別の保安全管理計画の策定	2025年度までに全サイトで策定	

《連携団体》計画・保全部会、顧問、研究者、環境省

1-2 利用ルールの明確化と周知

貴重なサイトを保全し、残していくために、持続可能なサイト利用のルールの明確化が必要です。また、個別のサイトの状況を鑑み、特に利用に注意を必要とするサイトでは、それをルール化する必要があります。そのルールは広く周知され、サイトを訪れる人はだれでも知ることがで

きるようにしなければなりません。2019年度、2020年度に設置したサイト解説板（計4基）では、フィールドマナーサインを記し、マナーの周知を行いましたが、一部サイト解説板での表記にとどまっているため、Webサイトやパンフレット等を通じてより広範囲での周知を行う必要があります。

取り組み	目標値	備考
◆利用ルールの周知 ・サイト解説板の更新、新設の際にはフィールドマナーサインを明示する ・Webサイトへの掲載	2023年度までに実施	

1-3 データベースの整理

サイトの情報は常に収集され、適切に整理されている必要があります。土佐清水ジオパークでは、各サイトについてサイトカルテを作成し、サイトの位置、価値、管理状況、保全状況、防災情報について整理しています。データベースの情報はモニタリング（2-1）の結果を受けて継続的に更新し、合わせて情報発信（1-4）もおこないます。

取り組み	目標値	備考
◆モニタリング情報を反映させたデータベースの管理	-	審査指摘事項5

1-4 サイトの情報発信

収集、整理されたサイト情報は、関係者と共有し、サイトの保全や利活用に役立てていく必要があります。土佐清水ジオパークでは、サイトカルテを作成、管理していますが、現在、その情報を地域住民や観光客へ公開はしていません。ウェブアプリケーション等の活用も視野に入れながら、だれでもサイトの情報へアクセスできる環境づくりが必要です。また、その際には、サイトの利用ルールについても合わせて周知することが必要です。

取り組み	目標値	備考
◆Web媒体でのサイト情報の公開	2024年度までに実施	審査指摘事項5

No.2 モニタリング

サイトの定期的なモニタリングとデータの蓄積は、適切にサイトの現状を把握し管理を行っていくために重要です。2021年に改訂した土佐清水ジオパーク構想基本計画では、すべてのサイトについて、2年に一度以上の頻度でモニタリングを実施することとしており、事務局を中心にモニタリングがおこなわれています。しかし、持続的なサイト管理のためには、事務局だけで

なく、地域住民をはじめとする関係者との連携と情報の共有が不可欠です。地域ぐるみで価値を共有し、守っていく体制構築が必要です。

2-1 定期的なモニタリングとデータの蓄積

サイトの定期的なモニタリングを制度化し、確実にサイトの状況を把握するようにしなければなりません。また、モニタリングの結果は蓄積されていく必要があります。

取り組み	目標値	備考
◆各サイト2年に1度のモニタリング実施	-	
《連携団体》計画・保全部会、観光ビジネス部会、ジオガイド、学校		

2-2 モニタリング成果の報告・発表

モニタリング成果は蓄積してサイト管理へ役立てるとともに、住民へ広く知らせ、地域の現状を知ってもらう機会とするべきです。拠点施設である竜串ビジターセンターや、市内の文化施設である図書館や公民館と連携し、モニタリング成果の報告・発表の場を多く設けていきます。

取り組み	目標値	備考
◆モニタリング成果の報告・発表会の実施	年1回以上	

No.3 住民主体の保全活動

サイトをはじめ、貴重な地域の遺産を将来にわたって保全していくためには、その価値を関係者間で共有し、住民自身の手で地域の遺産を守っていく体制づくりが重要です。そのために、サイトをはじめとする地域遺産に関する普及啓発活動を進めるとともに、サイトのモニタリングや保全活動への住民参加を促します。またこれらの活動は、地域や自然の価値を学ぶ地域学習や環境学習の効果も見込めることから、学校と連携し、教育活動へ組み込むことも検討します。

3-1 学校や住民と連携したモニタリング

サイトの管理にあたっては、事務局のみではなく、地域住民と連携したサイト管理・保全を進めていくことが重要です。モニタリングはサイト保全の中でも重要で、定期的におこなわれ、だれでも参加しやすいものであることから、住民の保全活動への参画を促すときに適した活動であるといえます。

取り組み	目標値	備考
◆学校・住民と連携したモニタリング活動	年1回以上	
《連携団体》学校、地域コミュニティ部会、ジオガイド		

3-2 住民主体の保全活動

「マルバティショウソウ保全地」や「足摺岬のヤブツバキ群落」など、いくつかのサイトではすでに住民によるサイト保全活動がおこなわれています。このような取り組みを先行事例として他の地域へと広げ、より多くのサイトで住民主体の保全活動を促進していきます。「モニタリング活動の学校・住民参加」と合わせて、それぞれの地域、サイトに合った保全体制を構築していくことが重要です。

取り組み	目標値	備考
◆サイトにおける住民向けの啓発イベント	年1回以上	
◆住民主体の保全活動が行われているサイトの拡充	2ヶ所→5ヶ所	
《連携団体》学校、地域コミュニティ部会、計画・保全部会		

No.4 調査研究

4-1 大学や研究機関との連携強化

土佐清水ジオパークでは、大学や研究機関と連携しながら地域資源の研究を進めています。しかし、これまでは各研究機関に所属する研究者個人との連携に頼る面が大きく、組織同士での継続的な連携体制は不十分でした。そこで、これまでの連携をより深め、関係の深い大学および研究機関とのパートナーシップ締結を進めることで連携の強化を図ります。

取り組み	目標値	備考
◆大学・研究機関とのパートナーシップの締結	0件→2件	
《連携団体》大学、研究機関、顧問		

4-2 調査研究に関わる資料の収集および活用

土佐清水ジオパークでは、地域の調査研究に関わる様々な資料の収集をおこなっています。これらの資料は、目録を作って整理され、調査研究や教育等へ活用していくためものです。しかし、現状では目録が整備されておらず、利活用が十分に進んでいません。今後、資料の目録作りを進め、資料の活用を推進します。また、市民図書館と連携し、地域の自然、文化やジオパークに関する書籍の充実を図ります。

取り組み	目標値	備考
◆地質・岩石標本目録の作成	2023年度までに整備	
◆その他の資料の目録の作成	2025年度までに整備	

◆ジオパーク関連書籍の充実

-

《連携団体》計画・保全部会、大学・研究機関、ミュージアムネットワーク、市民図書館

4-3 調査研究活動に関わる支援

調査研究活動に関わる支援を充実させることで、ジオパークエリア内における地域研究を振興します。2018年から学術研究助成事業を実施し、ジオパークエリアで研究を行う研究者の支援をおこなっています。研究者のニーズの聞き取り等もおこないながらさらなる支援体制の拡充が必要です。

取り組み	目標値	備考
◆学術研究助成事業の継続	-	
◆研究支援、サポート体制の拡充	-	
《連携団体》顧問、大学・研究機関		

No.5 無形文化遺産の保全

人の営みや伝統文化もジオパークで保全すべき貴重な遺産です。新型コロナウイルス感染症の影響で、2020年から2021年にかけて多くの伝統行事が中止になったこともあり、無形文化財が急速に失われている危機的状況にあります。ジオパークでは、文化財行政とも連携しながら、無形文化財の目録やデジタルアーカイブ保存など、無形文化財の保全に取り組みます。

5-1 調査・目録作成

文化財保護行政などと連携をとりながら、地域の無形文化遺産の調査と目録作りを進めます。これは「4-2 調査研究に関わる資料の収集および活用」と同じですが、無形文化遺産の保全は喫緊の課題であり、重要度が高いことから、独立した項目として扱っています。

取り組み	目標値	備考
◆無形文化遺産調査	2022年度までに実施	
◆無形文化遺産目録整備	2023年度までに実施	
《連携団体》生涯学習課、中央公民館、郷土史同好会		

5-2 無形文化遺産の啓発

無形文化遺産を保全していくいちばんの方法は、暮らしの中で受け継がれていく「動態保存」であるといえます。しかし地域の人口減少や生活スタイルの変化で伝統食や年中行事が継承されず消えつつあります。土佐清水ジオパークではこれまで、郷土料理の普及を行うイベント「作って食べる食堂」などを開催し、無形文化遺産継承のための啓発活動をおこなってきました。今後機会を増やし、一層啓発活動に取り組んでいきます。また、オンライン等を活用した新しい方

法の模索も必要です。

取り組み	目標値	備考
◆無形文化遺産を啓発するイベント 《連携団体》地区、生涯学習課、中央公民館	年1回以上	経済発展 3-3

教育 — 地域に新たな価値と文化を —

私たちが暮らす地域と地球の価値を知ることにより、地球への意識を高め、地域住民全員がジオパーク活動に何らかの関わりを持てるよう、ジオパークの学びや研究を通じて新たな気づきや価値を見出す機会を提供していきます。

No.1 調査研究成果の普及

土佐清水ジオパークでの活動を推進するためには、まず住民の皆さんにジオパークとはどういうもので、自分たちとどういう関わりがあるのかを知ってもらわなくてはなりません。このために土佐清水ジオパークの魅力や価値、地域での調査研究成果などについて積極的に発信していきます。

1-1 研究成果のアウトリーチ

2018年からの土佐清水ジオパーク推進協議会による学術研究への助成事業をはじめ、地質・地形分野のみならず、多様な学術分野の調査・研究が土佐清水ジオパークを対象として行われ、それらの調査結果はストーリーやサイトの指定など、ジオパーク活動に反映しています。引き続き最新の研究成果や研究実施の意義を市民の皆さんに理解していただくための講演会の実施や内容をわかりやすく解説した資料の作成を行うとともにサイトの解説の一層の充実を進めます。

取り組み	目標値	備考
◆研究成果に関する講演会の実施	年1回以上	
◆ジオサイト解説パンフレットの作成	2022年度までに実施し、順次拡大	審査指摘事項1、5

1-2 ジオパークに関する理解

2021年度から試験的にJGNで運用がはじまった「ジオパーク検定」など、理解度を測る機会を広く住民に提供していきます。

取り組み	目標値	備考
◆ジオパーク検定の実施	年1回	
《連携団体》教育・啓発部会、ジオガイド、学校		

No.2 学校教育との連携

土佐清水においては、ジオパーク活動が始まる前から、地域の資源や環境などを学ぶ取組が実施されており、日本ジオパークの認定により、これまでの取組をさらに広げ、より深く学べる機

運が増してきました。協議会では、環境省や民間団体、専門家などと連携し、小中学生を対象にジオパーク学習を進めています。また、市内唯一の高校である県立清水高等学校でも「総合的な探求の時間」にジオパークを取り入れています。今後は、全教員を対象にした講座なども開催し、副読本や学習プログラムの有効活用を進めるとともに、市外の学校等にも周知を行い、ジオパーク学習の拡充を図ります。

2-1 学校での学習機会の拡充

土佐清水ジオパークで提供できる学習プログラムと学校教育課程との関係を整理してまとめた学習プログラム集を2020年度までに作成し、市内外の教育機関等に配布しました。このプログラム集に基づき子ども会等での学習の要望を受けるなど活用が進んでいます。学習プログラムをより利用しやすいものとするよう整理していきます。

また、各学年の学習段階に合わせ、ジオパークを教材とした整合性・連続性のある学習内容となるよう、系統的なカリキュラムを作り、他機関と協力しつつ講義を実施します。

取り組み	目標値	備考
◆学習プログラムのバージョンアップ	随時実施	
◆学校教育での系統的なカリキュラムの策定	2022年度に試行	
《連携団体》教育・ビジネス部会、各学校、教育委員会		

2-2 教員向け研修の継続と拡充

ジオパーク活動で取り扱う事項は理科にとどまらず、社会科等他の科目にも関係することから、理科教員のみならずすべての教員にジオパークに関する学習の意義等について理解を得る時間を設けます。

取り組み	目標値	備考
◆教員向け研修の実施	年2回程度	
《連携団体》教育・ビジネス部会、各学校、教育委員会		

No.3 防災学習の推進

土佐清水ジオパークの地質・地形や大地の成り立ちに関心を持つことは、自然災害の本質的な理解につながります。昨今では特に南海トラフ地震に対する防災・減災の意識が高まっており、「いつか必ず来る地震」と認識して備えておくことが必要です。また、土佐清水ジオパークには、日本海拡大期の地震や津波、マグマ活動の痕跡といった変動帯で生きていることを強く感じさせてくれる大地の遺産があることから、「生きている惑星、地球」を発信しています。

土佐清水市においては1946年の南海地震をはじめ、歴史的に地震や津波のほか台風や豪雨などにより大きな災害を受けています。それらの災害の歴史は地層や地形などでも確認できるほか、それらの記録は石碑や地名、口伝として残されています。これらは、先人が遺してくれた貴

重な災害の記録であり、未来への防災メッセージといえるでしょう。

これらの災害遺構や津波避難タワーなどをジオツアーに組み込み、自然災害について学んでいくことも重要な取組となります。今後も遺構や口碑の掘り起こしなどを通じて、防災・減災の啓発を進めていきます。

3-1 自然災害碑や防災施設等を活用した学習

土佐清水ジオパーク協議会が関係者と調査整理した自然災害を伝える石碑群は、災害を教訓として将来に伝える端的な教材です。児童・生徒だけでなく、地域の住民の皆さんにも石碑の意味するところ、保全の重要性について改めて理解していただくために、これらを活用した学習の機会を提供します。また、ジオパーク内にある津波避難タワーや津波避難路等防災関連施設を題材とした学習についても、市危機管理課、次項で育成された人材、その他関係者と協力のもと機会を提供していきます。また、土佐清水ジオパークの拠点施設である竜串ビジターセンターにおいて南海トラフ地震を想定した避難訓練を含め、ジオサイト、自然サイト、文化サイトごとの避難経路の見直し、設定・訓練を市危機管理課と協力して行います。

取り組み	目標値	備考
◆自然災害碑を活用した防災学習	下ノ加江、三崎、下川口小学校で年1回以上	審査指摘事項 5
◆危機管理課と連携した津波避難経路等を活用した防災学習	年1回程度	審査指摘事項 5
◆南海トラフ地震に関する学習	学校、自主防災組織において実施	審査指摘事項 5
◆全サイトでの避難経路の見直し、避難経路設定・訓練 《連携団体》学校、危機管理課、自主防災組織、郷土史同好会、ジオガイド	2025年度までに実施	審査指摘事項 5

3-2 防災・減災を伝える人材育成

災害に対する知恵や教訓は、住民の皆さんに根づくことで初めて、いざという時の的確な行動に結びつきます。そのため、住民の皆さんが災害に対する知識と行動をしっかりと理解することが大切です。協議会は、土佐清水市関係各課および地域の防災組織、郷土史会、専門家などとの協力のもと、ジオパークの知識とともに上述した歴史的な災害遺構および防災・減災のあり方について学び、実践して、地域に伝えられる人材の育成を図ります。

取り組み	目標値	備考
◆ジオガイドによる防災学習ツアーの造成 《連携団体》危機管理課、郷土史同好会、自主防災組織、ジオガイド	-	審査指摘事項 5

経済発展—地域をうるおす—

ジオパークによる地域の経済発展は、ほかの事業同様「持続可能」でなければなりません。地域資源を守り、その価値を高めることや循環させることに重点を置き、事業者等と連携しながら進めていきます。

No.1 ジオツーリズムの推進

土佐清水における観光振興はまちづくりです。土佐清水にある全ての資源を守り活かし、自らが誇りを持って訪れる人達にもその価値を伝えていきます。土佐清水ジオパークでは、ジオパークの理念のもと、「持続可能な観光」及び「責任ある観光」を推進し、大地の豊かさを伝えながら、環境や社会問題への意識啓発など、観光客にとって新たな気づきや発見があるガイドツアーや体験・アクティビティの充実を図っていきます。

近年、旅行スタイルは、コロナ禍を経て、さらに個人旅行が主流になるとともに、持続可能な社会の実現への意識が広まり、自然環境や地域社会に配慮した観光を志す旅行者が増えてきています。また、多様性への理解や包摂的な社会づくりが叫ばれる中において、訪れた人誰もが楽しめる観光地域づくりも必要不可欠です。観光事業者等と連携しながら、時代の流れをくみ取った持続可能な観光地域づくりを進めていきます。

1-1 ジオガイド養成

ジオツーリズムの推進に欠かせないのが、大地の成り立ちや地域の歴史をわかりやすく伝える「ジオガイド」の存在です。ジオガイド養成講座を継続的に行い、人材確保に努めます。また、インバウンド需要やバリアフリーツアーにも対応できるジオガイドを育成し、誰もが楽しめるジオツアーの商品化を目指します。

取り組み	目標値	備考
◆新規ジオガイド養成講座の実施	期間中に2ヶ年以上実施、認定ガイド22名→35名	
◆多言語対応ジオガイドの増員	1名→3名	経済発展 1-3

《連携団体》ジオの会、JGN、ジオツーリズム協会、観光ビジネス部会、観光商工課

1-2 ジオツアーの販売

2020年3月より竜串ビジターセンターやWebサイトでのジオツアーの販売を始めましたが、ツアーの販売はごくわずかで、ジオガイドを生業とするのは難しい状況です。ジオガイドや様々な事業者と連携し、ジオツアーをPRやキャンペーンなどを行うことで、ジオツアーの販売を促進します。また、ジオツーリズムを内外にPRするため、動画やWebサイトなどデジタルコンテンツを充実させていきます。

取り組み	目標値	備考
◆ジオツアー販売促進	183,700 円→2,000,000 円	
◆販売のための具体的な取り組みの実施	-	
・フェア等への出展		
・情報発信の強化		
・デジタルコンテンツの拡充		
《連携団体》観光ビジネス部会、観光商工課、竜串V C、環境省		

1-3 誰もが楽しめるツーリズムの推進

SDGs（持続可能な開発目標）が浸透したことで「誰一人取り残さない」という意識が社会にもたらされました。観光においても、障害の有無やその他の属性などにより排除されることがないように、インクルーシブな視点を持って取り組んでいかなければなりません。そのためには、ユニバーサルデザインを取り入れた施設整備のほか、VR（仮想現実）・AR（拡張現実）やオンラインの取り組みなど最新のテクノロジーを使うことも方法として考えられます。

また、2010年代から国内のインバウンド需要が高まりもあり、外国人旅行客の宿泊数は2015年から4,000人を超え、2020年からのコロナ禍前は増加傾向にありました。コロナ終息後のインバウンド需要の高まりを見据え、外国人旅行客もジオパークを楽しめるよう多言語で対応できるように、体制を整える必要があります。

取り組み	目標値	備考
◆バリアフリージオツアーの開発	1件以上	
◆多言語による情報提供（Web、解説板、パンフレット等）	随時実施	審査指摘事項 1,4
《連携団体》観光ビジネス部会、社会福祉法人、NPO法人等、観光商工課、福祉事務所		

1-4 事業者との連携

土佐清水にはジオガイドだけでなく、様々なアクティビティやツアーを提供している事業者や団体が存在しています。SDGsへの関心の高まりもあり、事業者の中に「持続可能な社会」へいかに貢献するかという模索が続いています。そのような事業者の皆さんにジオパークのプログラムや理念に共感してもらうことで、それぞれの事業者で提供している観光商品に「ジオパーク」の観点を取り入れることが可能です。出前講座やモニターツアーの実施などそれぞれの事業者との連携を深めることで、「ジオパーク」の視点を加えたツーリズムを推進していきます。

取り組み	目標値	備考
◆事業者向け出前講座	年 1～2 回以上	
◆事業者と連携したジオツアー・体験アクティビティの開発	0 件→2 件	
◆近隣施設との連携促進	継続	
◆企画旅行の受け入れ	継続	
◆幡多広域観光協議会を通じた教育旅行の受け入れ	継続	
《連携団体》観光ビジネス部会、観光事業者、観光商工課		

No.2 環境整備

ジオツーリズムの推進のためには、来訪者がそれぞれの希望に応じた楽しみ方ができるよう、エリア内の環境を整えていく必要があります。来訪者が必要な情報にアクセスでき、気持ちよくスムーズにジオツーリズムを楽しめるよう、可視性の確保やルート整備などを行っていきます。

2-1 表示物などによる可視性の確保

2021 年の審査で、改善点としてエリア内の可視性に関する指摘が多くなされました。表示物は建てるだけでなく、建てる際には景観やユニバーサルデザインなどにも十分配慮する必要があります。また、設置後の維持管理なども含めて、計画的に設置・管理をしていく必要があります。また、指摘事項で挙げられている当地域の地球科学的な特徴をわかりやすく解説したものになるよう内容もしっかり作りこんでいくことが求められています。

◆総合案内看板の整備

現在、当エリアには、ジオパークの概要や見どころを示した総合案内看板の設置はありません。ここでいう、「総合案内看板」はエリアの入り口や観光の起点となる道の駅や休憩所などに設置しているエリア全体の概要や見どころなどを示した表示板を指します。来訪者が当ジオパークを訪問した際、当地域がジオパークであることがわかり、ジオパークの視点でエリアを周遊することが可能になります。総合案内看板設置の候補地として、「竜串ビジターセンター」のほか、以下が候補として挙げられます。

- ・道の駅「めじかの里」
- ・鹿島公園駐車場
- ・足摺岬市営駐車場
- ・足摺岬駐車場
- ・足摺岬東側駐車場

中でも、道の駅はエリアの見どころである竜串海岸へのルート途中にあり、2023 年頃にリニューアルされることもあり、多くの人出が見込めることから、設置に向け、関係者と協議を行っていく必要があります。また、足摺岬も展望台の建替えなどの再開発が行われることもあり、それに合わせて、ジオパークの総合案内板の設置を検討していく必要があります。

取り組み	目標値	備考
◆総合案内看板の整備	2ヶ所以上 2024年度までに整備	審査指摘事項 3、4 活気づくり 2-1
◆サイト解説板の整備	・既存施設の改修（2022） ・新規施設設置計画策定（2022） ・新規施設の整備（2023～）	審査指摘事項 4

《連携団体》観光・ビジネス部会、観光商工課、顧問

2-2 サイト周辺の環境整備

エリア内の可視性の確保については、前項 3-1 で述べましたが、それと合わせて、来訪者が気持ちよく過ごせるよう環境を整備する必要があります。特に一部の観光地やサイトでは類似した看板や老朽化したものが乱立しているほか、遊歩道沿いに草木がうっそうと生い茂ったり、遊歩道が老朽化したりしているところもあり、来訪者がアクセスするのに不安を感じるような場所も少なくありません。市や観光協会など看板の設置者や管理者と連携を進め、老朽化した看板や設備の撤去や改修など、維持管理できるよう連携していく必要があります。

取り組み	目標値	備考
◆大岐海岸展望所の看板整理	2024年度までに実施	審査指摘事項 4
◆白山洞門の遊歩道、サイト解説板の整備	2024年度までに実施	審査指摘事項 1, 2
◆市、観光協会、住民等と連携したサイト設備のメンテナンス体制の着手	2022年度までに実施	審査指摘事項 4

《連携団体》観光・ビジネス部会、観光商工課

2-3 アクセスマートの整備

土佐清水ジオパークでは、古くから観光地として栄えてきた足摺岬や竜串が見どころとなっていますが、それ以外の見どころも多くあります。中には景観的、または地球科学的な価値があるものの、これまで観光利用されていなかったサイトもあります。観光や教育で利用価値の高いサイトについては、ルートを整備するとともに、多くの人に認知してもらえるよう Web サイトや SNS を通じて情報提供していきます。また、サイトを周遊する際には環境に配慮した公共交通や自転車などの移動手段が選択できるよう、利用促進を行っていきます。さらに、訪問者のエリア内の情報収集を用意するため、Web サイトや SNS などでの位置情報を充実させていきます。

取り組み	目標値	備考
◆利用価値の高いサイトのルート整備	-	
◆環境に配慮した移動手段の利用促進	-	
◆Web サービス、SNS 等での位置情報の活用	-	

《連携団体》観光・ビジネス部会、観光商工課、公共交通事業者

2-4 エリア玄関口での可視性の確保

2021年の審査では、エリアの玄関口にあたる高知空港や高知駅でのジオパークの可視性が十分でないとの指摘がなされました。エリアの玄関口での可視性は、現状、高知駅や中村駅周辺の観光案内所でパンフレット等を配布する程度にとどまっています。

高知空港や高知駅、そして、高知県の東西を走る土佐くろしお鉄道の内車内などにおいては、当ジオパークだけでなく、同じ高知県内にある室戸ユネスコ世界ジオパークとともに取り組むことも考えられます。それぞれの施設の管理会社や高知県、そして室戸 UGGp と連携を図り、広域的な可視性の確保に努めていきます。

取り組み	目標値	備考
◆高知龍馬空港での可視性確保	2024年度までに実施	審査指摘事項7
◆高知駅周辺での可視性確保	2024年度までに実施	審査指摘事項7
◆中村駅での可視性確保	2022年度までに実施	審査指摘事項7

《連携団体》室戸 UGGp、土佐くろしお鉄道、JR、高知龍馬空港、高知県

No.3 持続可能な経済発展

ジオパークを経済的な発展に結びつけていくためには、地域固有の商品のブランディングや開発も有効です。事業者と連携し、ジオストーリーをベースとし、地域の風土と調和し、環境負荷が少ない商品やサービスを生み出していきます。また、漁業分野とは積極的に連携し、ジオパークの考え方を取り入れ、専門家と連携しながら、持続可能な漁業を推進していきます。

3-1 一次産業分野との連携

一次産業は、地形や気候などジオの要素と大きく関連があり、暮らしの根幹を支え、自然とともにある産業です。一次産業分野の特産品にジオストーリーを用いたブランディングや、環境に配慮したサステナブルな事業の展開など、ジオパークと連携することでより価値を高めることが可能になります。協議会に参画する会員や事業者とも連携を深め、課題解決に取り組み、風土と調和した一次産業を推進していきます。

特に漁業に目を向けると、近年、土佐清水におけるメジカなどの漁獲量が著しく減少しています。この原因には周辺海域の環境変化だけでなく、気候変動や黒潮の潮流の変化、世界的な魚の消費動向の増加など、地球規模の要因が背景にあります。土佐清水ジオパークは、漁業で発展し、海と共に生きるまちとして、この問題に率先して取り組む必要があります。漁業関係者や、行政、研究者と連携を図り、持続可能な漁業の推進を目指します。

また、土佐清水近海では古くから宝石サンゴ漁が行われています。特に過去20年ほどは中国の経済発展に伴う需要の拡大から、盛んに行われてきた背景があります。このことについては、2021年の現地調査でも言及され、今後その保護・保全を進めるため、ジオパークの活動

を活かすよう指摘されています。今後、漁業関係者や研究者、行政等と連携を図り、資源調査や、宝石サンゴの養殖に向けた研究など課題解決を行う必要があります。

取り組み	目標値	備考
◆協働による漁業資源の調査と管理	-	審査指摘事項 6
◆宝石サンゴ魚についての情報共有	-	審査指摘事項 6

《連携団体》観光・ビジネス部会、教育・啓発部会、農林水産課、漁業事業者、研究機関

3-2 ジオストーリーを活用したブランディング・商品開発

当地域では「一黒潮と共に生きる一漁師が生まれる大地の物語」をテーマにしており、これまでも宗田節や清水さばなどをジオストーリーと関連づけて発信し、それらをテーマにしたジオツアーなども実施してきました。社会全体の SDGs への意識の高まりもあり、ジオパークの考え方を取り入れるメリットも多いことから、会員や事業者と連携し、ブランディングや環境や社会に配慮した商品開発を行っていくことが望まれます。

取り組み	目標値	備考
◆ジオパークブランド認証の導入検討	-	

《連携団体》観光・ビジネス部会、観光商工課、農林水産課、民間事業所

3-3 地域に根差した食文化の発信

当地域ではこれまで、地域に伝わるお寿司などの郷土料理をイベントや広報を通じて発信してきました。「食」は人々を惹きつける分野でもあることから、引き続き、地域の食文化の掘り起こしと発信を進めていきます。また、地域の食材を使った地産地消や環境へ配慮した取り組みを実施する生産者や食品加工事業者、飲食店などとの連携なども検討していきます。

取り組み	目標値	備考
◆郷土料理の継承と発信	イベントの開催 年1回以上	保全 5-2

《連携団体》観光・ビジネス部会、地区、観光商工課

活気づくり—地域ににぎわいときらめきを—

ジオパークは地域のボトムアップからはじまり、世界を巻き込むプログラムです。“Think globally, Act locally”（地球規模で考え、地域で行動する）という言葉のように、まずは、地域でつながり、地域から行動を起こしていきます。そして、日本全国、世界に広がるネットワークを通じて交流することで、地域での取り組みは世界に広がっていきます。ジオパークを通じて様々な交流や連携を生み出すことで、地域に賑わいを、そして、社会に変革をもたらしていきます。

No.1 広報広聴・ボトムアップ

ジオパークの理念や活動を知ってもらい、多くの人に共感してもらうため、また、地域のボトムアップによる活動の充実のためには広報・公聴活動が欠かせません。より多くの方に土佐清水ジオパークを知ってもらい、活動に参画してもらうことができるよう WEB や SNS、広報誌を使った情報発信や地域の団体などと協働によるイベントの企画や、意見交換会などの機会を作っていきます。

1-1 情報発信

現在、当ジオパークでは、エリア内外での認知度向上を目的に市広報への連載や Web サイト、SNS 等を運用し、情報発信を行っています。今後も、それらを継続させ、質の高い情報発信を行っていきます。

取り組み	目標値	備考
◆ジオパークだよりの発行	継続	
◆Web サイトの運用	・ 月間ユーザー数（1,500→3,000） ・ イベント情報などの掲載 ・ PV 数（5,000→10,000）	
・ ジオサイトに関する情報の充実		
・ イベント情報などの掲載		
・ 英語ページの充実		
・ 読み上げ機能などの UD の推進		
◆SNS の運用	-	

1-2 講演会やイベントの実施

これまで、ジオパークへの理解を広めるため、講演会やイベントなども多く開催してきました。今後はより計画的に実施していきます。また、2020 年からはコロナ禍となり、対面でのイベントの開催が難しくなりました。そういった状況へ対応することや遠方の方の参加も容易になることもあり、コロナ終息後も対面とオンラインとのハイブリッドでの実施なども検討すべき課題です。

取り組み	目標値	備考
◆ジオパーク講演会の実施	年 1 回以上	

◆体験イベントの実施	年2回以上
◆研究者との連携イベント	年1回以上
◆イベントでの出展	年1回程度
◆出張展示の実施	年1回程度

《連携団体》教育・啓発部会

1-3 地域住民との意見交換

ジオパークは地域のボトムアップにより地域住民が主体的にまちづくりを行うプログラムでもあります。2021年に日本ジオパークに認定されたものの、その理念などはまだ十分に共有されているとは言い難い状況です。そのため、地域の人たちと積極的に関わり、意見交換をする機会を作ることが重要です。すでに行われている地域での集まりや各種団体や民間企業などの研修などにも積極的に出向き、意見交換を行う場を作っていきます。

取り組み	目標値	備考
◆住民説明会・意見交換会・出前講座	年5回以上	

《連携団体》教育・啓発部会、地域コミュニティ部会

No.2 拠点施設の充実

2020年、オープンした「足摺宇和海国立公園竜串ビジターセンターうみのわ」は土佐清水ジオパークの拠点にもなっています。館内には常設のジオパークコーナーや大地の成り立ちを示したプロジェクションマッピングなどの展示機能があるほか、観光コンシェルジュが常駐し、観光案内やジオツアーの受付などを行っています。管理者である環境省と連携し、ビジターセンターでのジオパークの情報発信を強化していきます。

2-1 足摺宇和海国立公園との連携によるジオパーク展示等の磨き上げ

土佐清水市の海沿いのエリアは1972年に足摺宇和海国立公園に指定されており、2022年に50周年を迎えました。2020年には竜串に足摺宇和海国立公園唯一のビジターセンターである「竜串ビジターセンターうみのわ」(竜串VC)が開館。当センターは土佐清水市国立公園*ジオパーク推進課が運営を行い、開館に伴い、土佐清水ジオパーク推進協議会事務局も竜串VC内に移転しました。竜串VCには観光コンシェルジュ、自然ガイドが常駐。環境省のレンジャー等と連携し、展示やイベントの企画や国立公園エリアの情報発信などを行っています。また、竜串VCには、国立公園の展示の一部としてジオパークの展示や大地の成り立ちを紹介しています。このような国立公園と連携した取り組みは2021年の審査でも高く評価されており、今後、さらに連携を深め、審査で指摘された土佐清水ジオパークの特徴である「三崎層群」の成り立ちや「足摺花崗岩体」のわかりやすい解説も含め、ジオパークの魅力や価値を紹介する展示をより充実させます。併せて、現在、竜串VCで年に6回程度実施している「自然ふれあい行事」の一環として企画展を実施します。

また、竜串 VC には収蔵設備がなく、博物館の要件を満たせていません。そのため、ジオパークとして研究や、資料の保存などを適切に行うためには、収蔵施設が必要になってくるため、今後、収蔵施設の確保についても議論していく必要があります。

取り組み	目標値	備考
◆VC 敷地内でのジオパークの可視性の確保	2024 年度までに実施	審査指摘事項 3 経済発展 2-1
◆ジオパークコーナーの更新	2024 年度までに実施	
◆竜串 VC でのジオパーク企画展示	年 1 回以上	
◆収蔵施設の確保についての検討	-	

《連携団体》竜串 VC、環境省、顧問

No.3 パートナーシップ・ネットワーク活動の推進

ジオパーク活動は地域の住民や多様な事業者や団体、研究者などの協働により進めるプログラムです。現在も多様な主体と協働で活動を進めていますが、それをより強固なものにしていくことが求められています。

3-1 地域団体との連携促進

これまで地域団体と協働でいくつかのプロジェクトが進められてきました。現在、正式にパートナーシップを締結しているのは、ジオガイド団体やツアーの事業者にとどまっています。地域の事業者と連携を深めるためのサポート制度の導入など相互にメリットが伴うような枠組みを構築していく必要があります。

取り組み	目標値	備考
◆地域団体とのパートナーシップ協定の締結	2 件→5 件	

《連携団体》地域団体、地域コミュニティ部会

3-2 行政との連携促進

ジオパーク活動はまちづくりそのものに関わることから、行政の協力は必要不可欠です。まちづくりのあらゆる面でジオパークの理念や考え方を取り入れていくためには、行政との連携は必要不可欠です。市役所での職員研修や関係各課との協議の場を持つなど、連携を深めていきます。

取り組み	目標値	備考
◆関係各課との意見交換	適宜実施	

《連携団体》土佐清水市

3-3 研究機関との連携促進

活動当初より高知大学の顧問を招聘しているほか、黒潮生物研究所には関係機関として協議会に参画していただいています。このほか、2018年より学術研究助成事業など、エリア内の研究を充実させ、研究者と連携する試みを実施しており、エリア内での研究やゼミ合宿などが行われることが増えてきました。今後、特に関わりの深い大学や、研究機関などとは正式なパートナーシップを結び、連携を強化していくほか、協働研究やプロジェクトの実施を進めていきます。

取り組み	目標値	備考
◆大学・研究機関とのパートナーシップの締結	0件→2件	
《連携団体》大学・研究機関		

3-4 民間企業との連携促進

ジオパークの推進のためには、様々な専門性を持った分野との連携が必要不可欠です。地域内外の民間の事業者などとパートナーシップの締結やサポート店制度など、ジオパークに関わってもらえるよう連携を明確にしていく必要があります。

取り組み	目標値	備考
◆民間企業とのパートナーシップの締結	0件→2件	
◆サポート店制度、ジオパークブランドの認証等の導入の検討	-	
《連携団体》観光・ビジネス部会、観光商工課		

3-5 ジオパークネットワークへの参画

ジオパークの活動は土佐清水のエリアだけの活動ではなく、ほかの日本全国のジオパークやユネスコ世界ジオパークネットワークと、ともに行う活動です。他地域との連携やネットワーク全体での活動を充実させ、日本、そして世界を視野に入れた活動を行うことで、ネットワーク全体の発展を目指します。

取り組み	目標値	備考
◆中四国近畿ブロックでの連携	-	
◆国内ネットワークでの連携	-	
・全国大会、研修会、ワーキンググループ等への参画		
◆国際ネットワークへの参画	-	
・G G N研修会への参加、情報収集、交流活動等		
《連携団体》観光・ビジネス部会、観光商工課		

No.4 地球にやさしいまちづくり

ジオパークは地球を大切に思い、持続可能な社会を目指すプログラムです。そのため、様々な環境問題に積極的に取り組み、住民の環境意識の啓発をしていく必要があります。

4-1 地域内でのごみの削減、リサイクルの推進

近年、環境意識への意識がより一層高まり、マイバッグやマイボトルの持参も一般的になってきました。ジオパークに関わる事業の実施の際には、なるべく環境負荷の低い物品を調達することやゴミを増やさないう工夫するなど、各自が取り組んでいきます。また、ジオサイトでのごみ拾いなどの清掃活動を実施し、海洋ゴミ問題などにも意識を高めていきます。

取り組み	目標値	備考
◆海岸沿いサイトの清掃等の実施及び海洋プラスチック問題の啓発	-	
《連携団体》 市民課環境室、環境省、研究機関		

4-2 生物多様性への理解を深める

土佐清水ジオパークには、地質的な要素だけでなく、そこで生きる生物も大切な要素です。土佐清水だけでなく、地球の生態系システムの生物多様性を守ることは、我々人類の健康で豊かな生活を守ることにつながります。現在も行っている希少動植物の保全や、生物多様性についての啓発活動を充実させ、住民や事業者へ理解を求めています。

取り組み	目標値	備考
◆生物多様性・希少動植物の保全活動の継続	-	
《連携団体》 環境省、観光事業者、地区、研究機関		

No.5 組織の持続可能な運営

現在、ジオパーク推進協議会は任意団体組織ですが、UGGp 作業指針の基準には、「ユネスコ世界ジオパークは、国の法令のもとで法的位置づけのある管理運営団体を有する地域でなければならない。管理運営団体は、ユネスコ世界ジオパークのエリア全体を十分に扱うために適切な能力を有するべきである。」と記されています。この基準に見合うよう、持続可能な組織運営を実施していきます。

5-1 組織のあり方の検討

前述しているとおり、ジオパークの管理運営団体は、「国の法令のもとで法的位置づけのある管理運営団体を有する地域」とされており、運営組織には法的な位置づけが求められています。土佐清水をはじめ、国内のジオパークの運営組織の多くは行政主体の任意組織となっています。

が、法人化を行うジオパークが出てきています。当地域においても、専門員をはじめとする職員の安定的な雇用や自主財源の確保のため、法人化を含めた組織のあり方について検討していきます。

取り組み	目標値	備考
◆法人化を含めたあり方議論、先進地との意見交換	-	

5-2 予算の確保

現在、協議会のほとんどの予算は市からの補助金により賄われています。ジオパーク活動によりお金を稼ぐ仕組みを構築することで、自主財源の確保に努めます。また、安定的に運営を行うため、助成制度などを活用した事業を展開していきます。以下に、前期計画期間に必要な予算額を示します。

取り組み	目標値	備考	
◆安定的な予算の確保	2022年度	5,475千円	第七次土佐清水市総合振興計画に基づく
	2023年度	5,000千円	
	2024年度	5,000千円	
	2025年度	6,000千円	
◆収益事業の展開による自主財源の確保	-		

《連携団体》土佐清水市

5-3 人材の確保と育成

現在、土佐清水ジオパーク推進協議会は、以下の常勤職員で運営されています。今後も組織が同等、それ以上の能力を有するよう、スタッフの安定的な確保に努めます。また、それぞれのスタッフが今以上に能力を発揮できるよう、研修やノウハウの共有を行うなど人材育成に努めます。

取り組み	目標値	備考	
◆安定的な職員の確保	事務局長	1名	
	専門員	2名	
	事務局員	2名	
	VC専任職員	3名	
◆JGN主催研修会への参加	-		
◆研修の機会づくり	-		

《連携団体》土佐清水市

5-4 ジェンダーバランス、多様性の確保

現在、協議会事務局は女性スタッフの比率は50%程度となっていますが、協議会会員に目を

向けると、5%未満となっており、ジェンダーバランスに著しい偏りが見られます。意思決定の場により多くの女性が参加できるよう、各会員団体と連携し、ジェンダーバランスの確保を進めていきます。また、若い世代や様々な属性の人の参画など、多様性を確保することで、様々な意見を吸い上げ、議論できる体制を構築していきます。

取り組み	目標値	備考
◆協議会内での問題意識の共有	-	
◆実務者レベルでの協議の場づくり	-	
《連携団体》協議会各部会		